
双子の二人「ファースト」

レイン氷花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子の一人「ファースト」

【NZコード】

N4012D

【作者名】

レイン氷花

【あらすじ】

双子の紅は、貧血持ちで、病弱の天才高校生。蒼は運動神経抜群で、妹思いな元気少女。この双子が揃えば、最強！？双子の一人「ゼロ」の続編！

(前書き)

まあ、読んで見て面白くなかったら、途中で止めてこいですよ?
では、レインの小説御覧くださいな

「蒼。」

「何？」

「頼むから止めてくんないかな。」

「何を？」

蒼はとぼける。

現在の俺が置かれている状態は、一言で言つと、かなりいい。だが！

「裸でくつつかないでくれ。」

「ええ～！気持ちいいのに？」

そう！今俺が置かれている状態は、蒼が裸で添寝しているのだ！だが俺も漢だ！嬉しくない訳が無い。だがな。この状態が続くと、俺の理性がぶつ壊れちまうんだよ。

「もつと一緒にいようよ。」

「いや、だから、服着てくれ。頼むから。」

「い～やつ！」

「コイツ～！つて、え！？チヨツト待て！パンツに手を入れやがった

！？

「うふふ～、紅を裸に～」

「おい！？待て！待て！それは止めるー！」

願いも空しく、
蒼にパンツを奪われた。

「返せバンツ」

一
しりやうだ!

蒼からパンツを取り返すべく、身を乗り出して腕を掴む。が、元々無理な姿勢で掴んだ為、蒼に覆い被さってしまった。

「わあ、紅つて大胆だね。」

「変な冗談つくな。」

力チャン！

バタン！ドタドタ！

「ありやりや、桃には刺激が強過ぎたかな？」

最悪だ

その後の俺は忙しかつた。桃の誤解を解く為に1時間以上を費やし、朝食を抜いて学校に行くしかなかつた。

「紅、顔色悪いよ？」

「誰のせいだよ。

「まあ?誰の體にこじりこなづ。」

コイツ！本当にムカつく奴だな！

「もういい、行くぞ。」

かなり疲れた…、朝からこんなに疲れると、眠くなつて、…大変だ。

「大丈夫？ 気分悪いなら学校休む？」

「いや、いい。」

くそつ、とは言つたものの、意識が、薄れて、き…、た…。

「わ…本当に大丈夫！？ 無理しないで…」

「無理はしてね、え…。」

「もう…昔から体が弱いんだから無理しないでよ。」

蒼の声が遠くなつていいく…な…。

次に俺が目を覚ましたのは、ベッドの上だった。

「目覚めた？」

「覚めた。」

「良かつた。」

「ここはどこだ。」

「病院。」

病院か、道理で、見覚えが無いと思ったら、運び込まれたのか。また。

「今何時？」

「10時56分。」

「結構寝たな。」

「「めんね。」

「謝るな。」

「ごめん。」

「蒼のせいじやない。」

「でも、倒れた原因は私なんだよ?」

「それでも、蒼のせいじやない。」 「優しいね、紅は。」

そう言つて、涙を拭う。

「コイツはいつも俺を思つてくれている。そつ言つ事であれば、俺はコイツの足元にも及ばない。」

「眠たい?」

「全然。」

「じゃあ、何か話する?」

「お前は眠くないのか?」

「ちょっと眠い。」

「だったら、寝れ。」

「嫌だ。紅と話する。」

「くま出来るぞ。」

「いいんだよ、僕は。」

「眠つてくれよ。頼むから。」

「どうして?」

「お前の寝顔が見たいから。」

「え、え! ? な、何言つて? 」

「蒼の寝顔が見たいんだ。だから、寝てくれ。」

蒼の顔が、急激に赤くなつていぐ。

「うん、分かつた。お休み、紅。」

「お休み、蒼。」

「

蒼は、数秒で寝息をたてて、その純粹な顔を覗かせる。

「ゆづくつ休め。蒼。」

蒼の頭を撫でる。

満月が、病室から見たくはなかつたな。

自嘲気味に自分を笑う。

紅の長い夜は続く。

今更思うのだが、蒼は俺が好きだ。家族として、双子として、異性として、勿論、俺も蒼が好きだ。でも、いつまでこんな日常が続くか…。

「悲しいな、今すぐにでも抱き締めたいのに出来ないのは。」

紅の長い夜は続く。

それが辛ければ辛い程、長く感じる。

紅に許されてるのは、蒼の幸せを願う事。

(後書き)

また、続編書くんで、宜しくねえ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4012d/>

双子の二人「ファースト」

2010年11月24日16時04分発行